

第6学年2組 音楽科学習指導案

授業者 教諭 柴沼 律子

- 1 題材名 楽曲の構造を感じ取って鑑賞しよう
- 2 題材の目標 楽曲の構造を感じ取りながら、楽曲全体の面白さや美しさを味わう。
- 3 題材でひもとく音楽の要素や仕組み 【楽曲の構造】

4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、楽曲の構造を感じ取り、曲想を味わって聴く活動を行う。「楽曲の構造」とは、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みのかかわりによってつくられるものであり、そのかかわり方によって楽曲は独特なものになる。その「楽曲の構造」が、曲想と深く結び付きながら音楽全体の美しさを生み出していることを味わって聴く態度や能力を育てる学習活動を展開する。

(2) 児童の実態（男子17名、女子16名、計33名）

多くの児童が、いつも音楽の授業で学習する楽曲に興味や関心をもって聴いている。朝の鑑賞活動や昼の放送においても、進んで音楽を楽しむ様子が見られる。

音楽に関するアンケートでは、次のような結果である。 (7月調査)

- ・ 音楽の授業の中で、好きな活動はなんですか？（複数回答）
音楽を聴く26人 楽器を演奏する16人 歌を歌う10人
音楽に合わせて体を動かす6人 リズムやメロディーをつくる5人
- ・ 音楽を聴くときに、どんな点に気を付けて聴いていますか。（複数回答）
強弱27人 リズム25人 音色22人 速度22人
クライマックス18人 音の重なり方17人 始まり方や終わり方17人
リズムの繰り返し15人 繰り返しや変化、再現などを使った楽曲の構成13人
主なふしと同時に演奏されるもう一つのふし12人 ふしの繰り返し12人 ふし12人 曲想11人

この結果から、様々な音楽を特徴付けている要素や仕組みに気を付けて聴く力がついてきているということが考えられる。しかし、児童の鑑賞カードなどからは、それが曲想とどのように結びついているかまでを書くことができる児童は少ないという実態もある。楽曲の構造を感じ取り、曲想を味わって聴くことができるよう支援したい。

(3) 指導観

本題材では、楽曲の構造を感じ取らせるために、主な旋律の反復や変化と、そこに効果的にかかわり合っている強弱、速さ、音の重なりなどの要素に気付かせたい。そのことによって、楽曲の構造が曲想と深く結び付き、音楽全体の美しさを生み出していることに気付かせ、鑑賞の能力を深めることができると考える。児童一人一人の多様な感じ方を大切に、友達とかかわって鑑賞することで、お互いの気付きを認め共感し合い、曲想を全体的に味わって聴く面白さを味わうことができる児童を育てたい。

5 教材について

- ・「ファランドール」(『アルルの女』第2組曲より ビゼー 作曲)

この曲は、主な二つの旋律の反復、変化などがとらえやすく、そこに音楽を特徴付けている強弱、速さ、音の重なりなどの要素も効果的にかかわり合って、楽曲の面白さや美しさを引き出している。児童たちが楽曲の構造を感じ取り曲想を味わって聴くのに適した教材と考える。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	エ 鑑賞の能力
歌唱			
器楽			
創作			
鑑賞	○	○	○
題評 材価 の規 準	楽曲の構造に興味をもって聴こうとしている。	楽曲の構造を感じ取っている。	楽曲の構造をとらえ曲想を味わいながら聴いている。
学具 習体 活の 動評 に価 お規 け準 ける	①音楽を特徴付けている要素や仕組みに関心をもって聴こうとしている。	①楽曲の構造に気付き、音楽表現のよさや工夫を感じ取って聴く。 ②楽曲の構造に気付き、それがどのように曲想を特徴付けているかを感じ取って聴く。	①楽曲の構造をとらえ、曲想を味わって聴く。

7 学習活動と評価の計画 (4時間扱い)

次	ねらい	主な学習活動	具体的評価規準
第1次 (1)	○楽曲の構造に興味をもって聴く。	「ファランドール」 ○楽曲を繰り返し聴き、感じたことや思ったこと、気付いたことなどを発言したり書いたりする。	アー①
第2次 (2) 本時は 第2時	○楽曲の構造を感じ取る。	○楽曲の一部分に注目し、主な旋律を歌ったり楽器で演奏したりしながら、主な旋律の反復や変化、対照、旋律と旋律とのかかわり合いなどを感じ取り、話し合う。 ○この楽曲の面白さやよさを、グループごとに話し合い、全体で発表	イー① イー②

		することで、音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素とのかかわりが、曲想を特徴付けていることを感じ取っている。	
第3次 (1)	○楽曲の構造を味わいながら聴く。	○全体を鑑賞し合いながら「楽曲の構造」をとらえ、曲想を味わって聴くことの面白さを共感する。	エー①

8 本時の学習（第2次 第2時）

(1) 本時の学習について

楽曲の構造に気付き、それがどのように曲想を特徴付けているかを感じ取って聴く。

(2) ねらい

「ファランドール」の面白さやよさについて、各グループごとに発表し合うことで「楽曲の構造」に気付き、それがどのように曲想を特徴付けているかを聴くことの面白さを共感する。

(3) 準備・資料

「ファランドール」のCD、楽曲の構造図（全体用）、楽曲の構造図（グループ）、オーディオセット、ホワイトボード、ワークシート

(4) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体的評価規準）
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「ファランドール」のおもしろさやよさをさぐろう。</p> </div> <p>2 代表グループが、「ファランドール」の面白さやよさを、音楽の仕組みや要素などの根拠をもとに発表する。</p> <p>（予想される児童の発言）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>Aグループ：後半部分</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・後半速くなる所は、打楽器も入って全体的に音も強くなり、迫ってくる感じがします。 ・AとBの旋律を同時に現れる所は音が重なっていて、Aの旋律が短調から長調に変わっているように感じます。 ・楽器の種類を増やして音の重なりを出し、音の厚みや曲の盛り上がりをつくっています。 	<p>○友達の発表を聴くことで、自分が気付かなかった面白さやよさを見つけられる楽しさが味わえることを話し、本時の学習の意欲を高めるようにする。</p> <p>○グループで作った楽曲の構造図の一部を指し示しながら発表させる。</p> <p>（楽曲の構造図の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律A 「王の行進」を基本とした旋律 ・旋律B 「ファランドール」を基本とした旋律 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <pre> graph LR B1[B] --> A[A] B1 --> B2[B] A --> Coda[コーダ] B2 --> Coda </pre> </div> <p>○聴いている児童が、代表グループの発表後、質問や感想、意見などを発言できるようにする。</p>

<p>Bグループ：前半部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ旋律が繰り返されている部分でも、演奏の仕方に違いがあります。追いかけるようにずらして演奏しています。 ・Aは堂々とした感じ、A'は応答しているような感じがします。 <p>3 自分の考えを发表或し、友達の意見を聞いたりして、さらに深く味わったことをワークシートにまとめる。</p> <p>4 各自が感じたことを味わいながら「ファランドール」を聴く。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<div style="text-align: center;"> </div> <p>○カノンや移調の部分などに気付いた発言があったときは、教師がキーボードで実際に演奏するなどして、補足説明をする。</p> <p>○第1次で、初めて「ファランドール」を鑑賞したときのワークシートと比較することで、楽曲をより深く聴き取れたことを実感できるようにする。</p> <p>◆楽曲の構造に気付き、それがどのように曲想を特徴付けているかを聴き取っている。 (イー②：ワークシート，発言)</p> <p>○本時の学習をさらに生かして、次時の学習では楽曲全体を味わって鑑賞することを伝える。</p>
--	--

9 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断する事例
<p>イー②</p> <p>楽曲の構造に気付き、それがどのように曲想を特徴付けているかを感じ取って聴いている。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの発表後、楽曲の構造と曲想を結び付けてさらに深く味わったことをまとめたワークシートや発言からとらえる。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構造と曲想を結び付けて考えることができない児童には、掲示物や板書を手がかりに感じ取らせる。 <p>【Aと判断する事例】</p> <p>□楽曲の構造をとらえ、全体の曲想と結び付けた感想を書いている。</p>